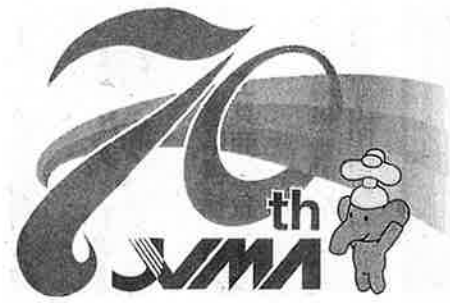
第一回バルブフォトコンテスト募集開始

3月21日、創立70周年迎える

日本バルブ工業会　暮らしと産業を支え続けて70年



暮らしと産業を支え続けた70年

2024（令和6）年3月21日㈭、日本バルブ工業会（会長＝西岡利明氏・SANEI社長）は創立70周年を迎えた。その記念すべき日を迎えるにあたり、西岡会長から以下のコメントが出されている。

「日本バルブ工業会は1941年3月設立の日本バルブコック工業組合連合会を前身に、1954年3月21日、日本弁工業会として設立致しました。その後、1962年8月に日本バルブ工業会に名称変更し2013年4月1日、現在のカタチである一般社団法人日本バルブ工業会へと推移して参りました。その間、戦後復興から高度経済成長、バブル景気、また然災害等々を経験し、更なる強固な工業会へと進化・発展し、流体制御の要として社会に貢献して参りました。お陰様を持ちまして、本年3月21日に日本バルブ工業会は設立70周年を迎えます。これもひとえに皆様方の温かいご支援の賜物だと感謝申し上げます。中期活動計画であるV70は2026年度をゴールに新たな中期活動計画『仮称 From Now 70』を現在策定中です。更なる意義ある工業会に進化し続けられるよう、皆様方と共に精進して行きたいものです。最後に、皆様方の益々のご繁栄ご健勝をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます」。

西岡会長

なお、同工業会の創立70周年記念式典ならびに祝賀パーティーは、通常総会とともに、2024年6月6日㈭午後、大手町サンケイプラザ（東京都千代田区）での開催が予定されている。

◇

バルブが、いかに広く世の中で使われているかを気づかせてくれる、日本バルブ工業会主催『第1回バルブフォトコンテスト』が、創立70周年を迎えた本年よりスタートした。バルブと暮らしのつながりが分かる写真を どしどし投稿しよう。応募方法などは以下の通りだ。

【審査期間は年3回】

①第一回審査期間▽審査対象／2024年2月9日㈮～同5月7日㈫24時までの投稿作品。審査結果発表は2024年10月30日㈬の予定。②第二回審査期間▽審査対象／同9月17日㈫24時までの投稿作品。審査結果発表は2025年3月21日㈮の予定。

【応募方法】

同工業会のインスタグラム（アカウント名＝jvmaoffical）をフォローし、撮影したバルブの写真と投稿内容に「作品名：○○○」と加え、「#（ハッシュタグ）バルブフォトコンテスト」を添えて投稿するだけ。ただし、動画での応募は審査対象外となるのでご注意を。

【応募資格】

プロ・アマ問わず誰でも応募できる。

【表彰ならびに賞品】

「ばるちゃん」グッズが贈呈される。

そのほか、応募の際の注意点など詳しくは同工業会事務局に問い合わせるか、同工業会のウェブサイトへアクセスを。なお、これまで開催されてきた『バルブフォト〝五七五〟コンテスト』とは応募方法などが異なるのでご注意を。

過去のバルブフォト〝五七五〟コンテスト受賞作品

日本のモノづくりの転換期

最新工具とソリューションを提供

中部タンガロイ特約店会　新年賀詞交歓会を開催

中部タンガロイ特約店会（会長＝水谷彰宏氏・東亜機工社長）は、1月16日午後6時より名古屋マリオットアソシアホテルにて新年賀詞交歓会を開いた。

冒頭、水谷会長が「2023年の日本のGDPがドイツに抜かれて世界第4位になるというニュースが新聞に出ていた。インバウンドで観光も盛況になってきているが、やはり日本としてはモノづくりを中心に、私どもはそこで生きているのでしっかりやって行ければと思う。タンガロイさんを中心に本年も頑張りたい」と挨拶。

木下聡タンガロイ社長は、昨年を振り返り「日本は、自動車の生産台数が上がっても、新しい開発プロジェクトがなかったり、やはり中国の影響度が非常に大きいのかと感じている。世界的にはアメリカもヨーロッパも非常に良い状態で、タンガロイの売上も伸びた。日本の優れたモノづくりがコロナでここ4年ぐらい立ち止まってしまい、世界でかなり遅れを取っているのではないかと危惧している。タンガロイは昨年12月に決算を迎えているが、国内の切削工具は前年比マイナス3・5%で、業界より減少幅は少ないが減収。ただ、中部支店は前年と同水準で比較的良い状態だった。海外の切削工具はプラス10%で、タンガロイ全体としては5%の増収となり、過去最高の売上を達成できた」と報告し協力に感謝した。

水谷彰宏会長

木下聡タンガロイ社長

今年の方針については「何とか日本のモノづくり産業を発展させて行きたいというのが私たちメーカーの思い。人手不足や輸出における価格競争に勝つためには、今年、来年と自動化投資をする会社が生き残れるのかと思っている。当社の取り組みとして、昨年は49点の新製品をリリースしたが、今年もまた多くの商品を発売すると共に、ツーリングのソリューション提案を進め、最終的に自動化・省人化、技術レベルアップにつなげたい」と述べた。

続いて賛助会員を代表して挨拶に立った高田研至幹高社長は、自動車業界の動向に関して話す中で「先日、トヨタ自動車の豊田会長がエンジンの開発はすると仰られた。トヨタが発表した2024年の生産台数は1030万台。このうち340万台を国内で、690万台を海外で生産する。これからエンジンの開発をする中で、BEVは2030年に350万台と言われているが、1000万台ほどはエンジン車を作って行くと聞いている。当然、作り方など色々と変わってはくるが、工具関係はここ数年落ちることなく、それ以上にプラスがあると思っている。タンガロイさんには益々しっかり開発をして頂き、我々をバックアップして頂きたい」と期待を示した。

嶋崎晴久中部タンガロイ特約店会会計監事（シマザキ商会社長）が乾杯の発声を行い開宴。

賀詞交歓や大抽選会で懇親を深め、松本憲幸タンガロイ営業本部長が「我々にできるのは最新工具でお客様の生産性、コストダウンに貢献することだ。10%アップの高い目標を掲げており、これを達成して日本のモノづくりを盛り上げて行きたい」と挨拶し、富山県から参加した杉木慎一郎中部タンガロイ特約店会幹事（伸栄商会社長）の「能登の震災はあったが、今年、来年は転換期としてどのように商売を変えて行くかという所で楽しみな1年になるのではないか」との言葉と一本締めでお開きとなった。

今年もざっくばらんに親交深め

30名の正会員・賛助会員集い情報交換

名古屋ポンプ組合　令和6年新春交歓会

名古屋ポンプ組合（代表理事＝竹田隆一氏・中京製作所社長）は2月2日㈮、木曽路瓦町店（名古屋市中区新栄）で『令和6年新春交歓会』を開催。正会員、賛助会員ら合わせて30名が参加し、新春の挨拶を交わした。当日の司会進行は、山金ポンプの米本卓弘社長が務めた。

組合を代表して、浅野洋吉名古屋ポンプ組合事務局担当兼新春交歓会幹事（浅野製作所社長）から、元日と翌2日に相次いで起こった災害と事故に対する御見舞の言葉が述べられた後、「新しく赴任された方はご存知ないかもしれませんが、昭和30年代から40年代にかけてこの地域にはガチャポン（手押しポンプ）やカスケードポンプを手掛けていた小さなメーカー企業がいくつもありました。その関係で、昭和40年代に入り当組合の前身である『名古屋ポンプ工業組合』が設立され、最大で30数社まで組合員数を数えたと聞いております。それからだんだんと時代の趨勢（すうせい）に応じて廃業されたり、メーカーとしてやっていけなくなって商社に変った会社などいろんな流れがあって今の状態となっております。さて、新しい年を迎えたものの先行きがなかなか見通せない状況かとは思いますが、だからといって元気を無くしていても仕方ありません。本日はせっかくこうして皆さんにお集まりいただいたことですし、時間の許す限り情報交換でもしていただいて、休み明けより元気に仕事に励んでいただければと思います」と参加者に向け挨拶があった。

浅野事務局兼幹事が挨拶

30名が駆けつけ情報交換

続いて、鶴見製作所中部支店の安井啓之支店長が賛助会員を代表して挨拶。荏原製作所中部支店の鹿嶌信孝部長の乾杯の発声で新春交歓会の幕が上がった。

情報交換や新春の挨拶に花が咲き、宴もたけなわとなったところで、名古屋ポンプ組合の竹田代表理事が挨拶。最後にマルティーポンプコンサルタント徳美文悟社長の中締めで散会となった。